

酷暑 体調不良、回復に日数も

高温・渇水影響アンケート

日本農業新聞「農家の特報班」の高温・渇水関連のアンケートで、全回答者の6割に当たる64人が今年に入って農作業の途中や終了後、高温の影響で「体調不良になった」と答えた。農家は屋外での作業が多い一方、体調が回復するまで一定期間がかかるケースもあった。酷暑がいつまたに続く中、専門家は「ダメメジは蓄積する。十分な備えと適切な行動が重要」と指摘する。

熱中症遅れて認識

今年に入って「熱中 気付いた」（佐賀県40 症などの体調不良にな 代男性・野菜農家）と の声も届いた。

数は最多が「1日程度」の37人、「2、3日程度」が16人、「1週間程度」が2人、「1週間以上」が1人と回復まで日数がかかった人もいた。

具体的な症状として頭痛やめまい、倦怠（けんたい）感などが挙げた。「体調が悪

各種工夫も要警戒
高温下で体調を崩さない工夫を尋ねると、休憩や水分・塩分補給などに加え、ファン付き作業服の着用を挙げる人が目立った。ただ、体温以上の気温では熱を持った風を体当てることになり「暑い環境下では効果

が少なくなる」との見解を示すメーカーもある。下に着る肌着を湿らせておき、水が蒸発する時に熱を奪う「気化熱」の作用で体を冷やす使い方もある。

調查概要

調査概要 アンケートは特報班のL I
NEで告知し、3日までの5
日間、募集。無作為抽出の世論調査と異なり、多様な意見を聞くための調査した。40都
道府県の112人が回答。うち専業・兼業農
家、農業法人従業員は97人だった。

どう対策？ 農家の実践例

見守り重視 異変見逃さず

「その時は笑ひ話で済んだが、何事もなくて安心した」。神奈川県の30代男性果樹農家は、今年のある出来事をこう振り返る。

特に、休憩や農作業を終えた時などは声をかけ合うことが定着している。

畑で姿が見えず
駆け付けると…

この農家の圃地の周辺には別の人が手がける野菜畑も複数並ぶ。夏場はある日、畑で作業中だった一人の姿が見えなくなることがあった。「まさか倒れたのでは」と、この農家が駆け付けると

「じゃがんでいたんだった。」
「最初は焦ったと苦笑するも、ちよつともと異変があれば、すぐに対応することが大事と話す。家族内でも見守りを重視。代母の母は、自業の署する70代の母は、自業の署する70代。届く場所で作業をしても、らう。」「万が一の時も放置するとなく、すべに助けられる」と話す。

作業合間にプールで冷却

牛舎で2時間作業をしたら、家庭用プールで体を冷やす。北海道の30代男性畜産農家は、そんな工夫で高温下での体調管理に努める。

もともとは子どものた

め3層×2層の家庭用プールの購入、昨夏から自身の農作業の合間にも使

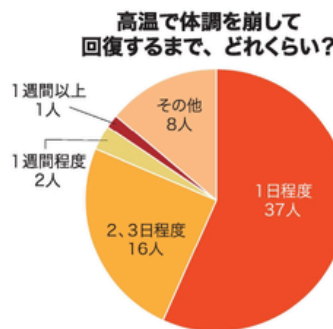
い始めた。

牛の体を冷やすため2時間置きに放水する。その都度、自分もプールで

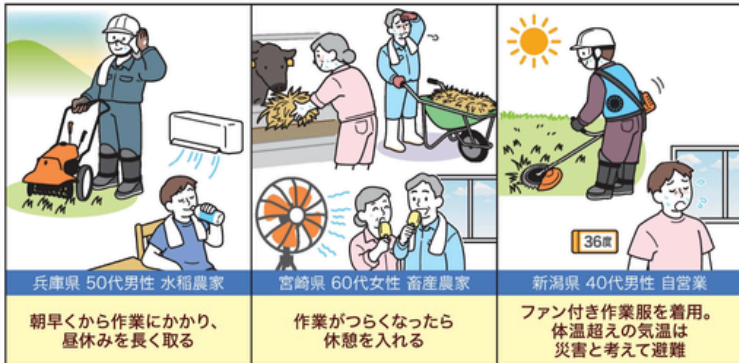
体を冷やす。一家に帰ってクーラーに当たって、また牛舎に戻るより効率的」と実感する。

▼作業中に万が一の時でも対処できるよう、互いに居場所が分かる位置にいる農家（神奈川県内で）

▼北海道の男性畜産農家が、牛舎を出た後に入るという家庭用プール（投稿者提供）



高温下で体調を崩さないため、どんな工夫をしている？



アンケート結果を専門家はどう評価するか。気象予報士の資格も持つJA愛知厚生連・足助病院の小林真哉院長に聞く

備えを日常の習慣に

日差しが入ることもあるため「一定時間内であれば実践しても良い」と話す。夜、エアコンを効かせたまま就寝することも「適温に設定すれば体調の維持につながる」との意見を示す。

小林院長は「作業環境や体調を整え、気象情報を的確に把握するなどの備えが重要」と指摘。「どのような服装で臨み、体をどう冷やし、どこで休憩するかも定めておく必要がある」と話す。熱中症などに対するさまざまな備えを「日常の習慣」として定着させていくことが大事」と強調する。